# 富士山噴火時避難パターン

## 考えられる噴火のイメージ

### ◉割れ目噴火

地表面にできる線上の割れ目から溶岩が噴出する現象です。

### ◉溶岩流

溶けた岩石が火口から流出し、地表を流れ下る現象です。流下速度は比較的遅く人の足による避難が可能です。

### ◉火砕流

高温の火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象であり、大規模な場合は、地形の起伏にかかわらず広範囲に広がり、通過域を焼失、埋没させる現象です。流下速度は時速数十kmから百数十km、温度は数百℃にも達します。

### ◉噴石（空から降る岩や小石）

火口から吹き飛ばされる直径数十 cm の大きな岩石等は、風の影響を受けにくく、火口から弾道を描いて飛来します。到達範囲は火口から2～4km の範囲に限られます。比較的小さな噴石は火口から10 km 以上遠方まで風に流されて降下する場合もあります。

### ◉火山灰

火口から噴き出る岩石のうち2 mm 以下のものを火山灰と呼びます。火山灰は風に乗って遠くまで運ばれます。火山灰が多く降ると辺りが暗くなるとともに、目を開けていられなくなります。また、吸い込むと呼吸器に影響を及ぼす場合もあります。

### ◉土石流

土砂が水と一体となって谷間を高速で流下する現象です。通常の大雨でも発生しますが、火山灰が積もった場合は弱い雨でも発生しやすくなります。

## 図の見方と記号の意味

これらの図は、富士山で突発的な噴火（前兆現象が見られない、あるいは、前兆現象から噴火開始までの時間に余裕がない）が生じた場合に、危険な範囲からすみやかに避難するための目安として作成しました。

※ここで想定した噴火は、過去の富士山の噴火から典型的な10パターンを選定したものです。次に起きる噴火の厳密な火口位置を予測したものではありません。

SB → 噴火しそうな時、噴火が始まった時に避難すべき方向、アルファベットは噴火開始時の登山者の位置
まずは火口や噴石の降る範囲から速やかに離れます。その後は、より安全な方向に避難します。

SB:富士スバルライン
OH:山頂（お鉢巡り）
Y:吉田ルート
S:須走ルート
F:富士宮ルート
G:御殿場ルート

火口列の位置（紫色実線）
各噴火パターンで仮定した火口の位置です。富士山の噴火では、単一の火口ではなく、いくつもの火口がつながって火口列を形成する場合が数多くあります。

噴石（岩や小石）が降ってくる可能性がある範囲
（火口から約1km）

火山灰が2時間で厚さ1cm程度降り積もる可能性がある範囲
（小石が高速で降ってくる場合もあります）

7～8月によく吹く風の向きを仮定した場合、火山灰が2時間で1cm程度降り積もる可能性がある範囲
（小石が高速で降ってくる場合もあります）

溶岩流または火砕流が流れ下る範囲
過去に溶岩流または火砕流が流れ下った範囲を示しています。次の噴火でこの通りに流れるとは限りません。

## 噴火時にとるべき行動

**万が一、登山中に突発的な火山噴火が起こった場合は、次の行動をとりましょう。**

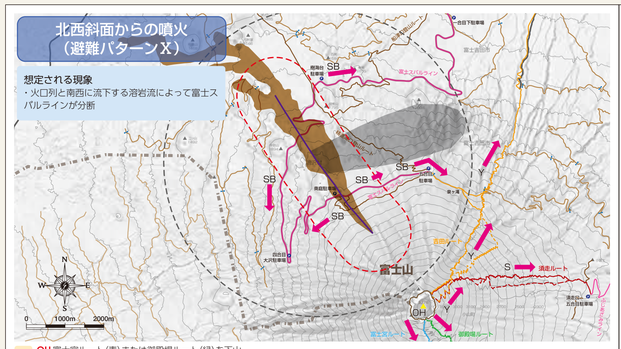
❶ 噴火場所を確認し、まずはできる限り火口から離れましょう。その際、火口の風下や下流側、谷間、窪地には入らないように注意しましょう。

❷ 火口の近くでは噴石が高速で降ってくる可能性があります。避難が間に合わない場合は、ザックなどで頭を守りながら、建物や岩陰に退避しましょう。

❸ マスクや濡れハンカチで口を完全に覆ったり、火山灰を目に入れないようにしましょう。

❹ 状況によっては、登山道から離れて待機したり、別の登山道を使って避難しましょう。

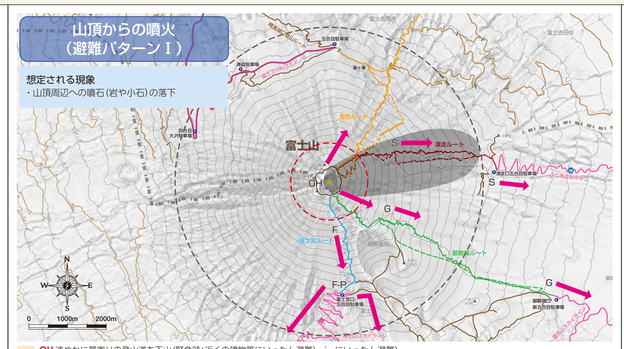
## 北西斜面からの噴火（避難パターンⅩ）




想定される現象
・火口列と南西に流下する溶岩流によって富士スバルラインが分断

避難する方向
OH 富士宮ルート（青）または御殿場ルート（緑）を下山
Y 吉田ルート（黄）または須走ルート（赤）を下山
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを避難
SB 火口列の北東の観光客・登山者は北（スバルライン料金所）方向、または北東（五合目駐車場）に避難。火口列の南西の観光客・登山者は南（大沢駐車場）方向に避難。

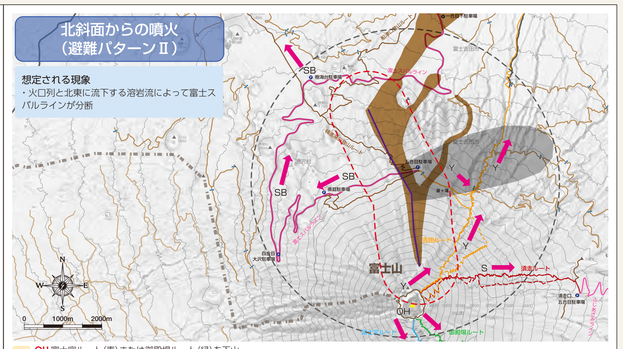
## 山頂からの噴火（避難パターンⅠ）




想定される現象
・山頂周辺への噴石（岩や小石）の落下

避難する方向
OH 速やかに最寄りの登山道を下山（緊急時：近くの建物等にいったん避難）
F そのまま下山（青）
F-P 富士山スカイラインを下山（緊急時：徒歩道で避難）
G そのまま下山し（緑）、富士山スカイラインを御殿場方面に避難
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを避難（降灰時：近くの建物等にいったん避難）

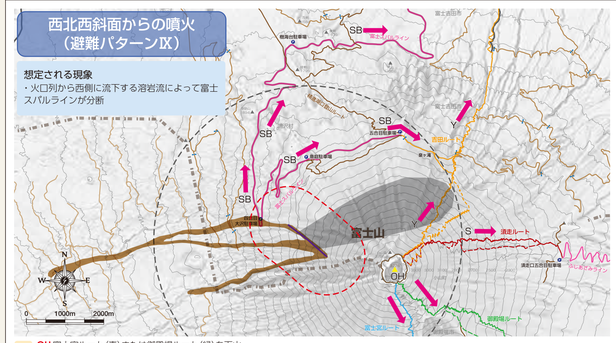
## 北斜面からの噴火（避難パターンⅡ）




想定される現象
・火口列と北東に流下する溶岩流によって富士スバルラインが分断

避難する方向
OH 富士宮ルート（青）または御殿場ルート（緑）を下山
Y 吉田ルート（黄）または須走ルート（赤）を下山。五合目駐車場周辺の観光客・登山者は、噴火の状況を見ながら、東（吉田ルート）方向に避難。
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを避難
SB 3 合目から北西（精進口登山道）方向に避難

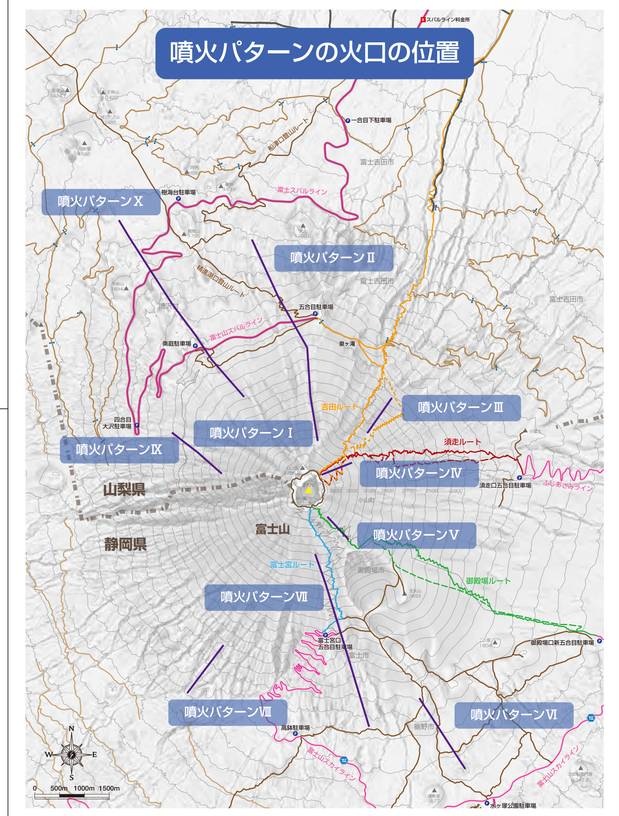
## 西北西斜面からの噴火（避難パターンⅨ）



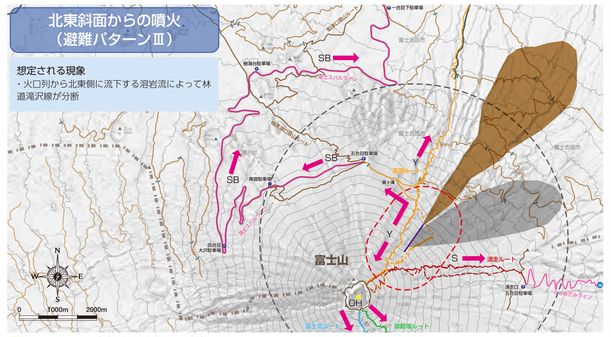

想定される現象
・火口列から西側に流下する溶岩流によって富士スバルラインが分断

避難する方向
OH 富士宮ルート（青）または御殿場ルート（緑）を下山
Y 吉田ルート（黄）または須走ルート（赤）を下山
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを避難
SB 北（スバルライン料金所）方向、または北東（五合目駐車場）に避難

## 噴火パターンの火口の位置



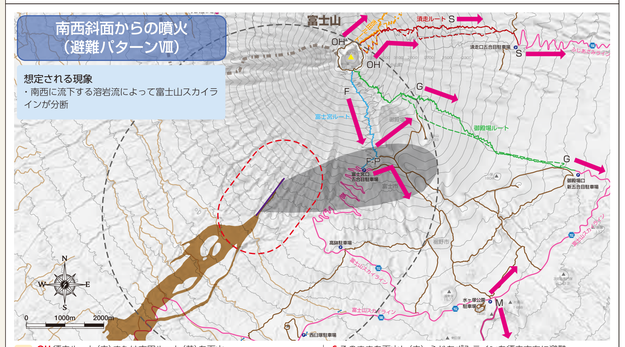

## 北東斜面からの噴火（避難パターンⅢ）




想定される現象
・火口列から北東側に流下する溶岩流によって林道滝沢線が分断

避難する方向
OH 富士宮ルート（青）または御殿場ルート（緑）を下山
Y 吉田ルート（黄）または須走ルート（赤）を下山するが、場合によっては西（五合目駐車場）方向に避難
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを避難
SB 北（スバルライン料金所）方向に避難

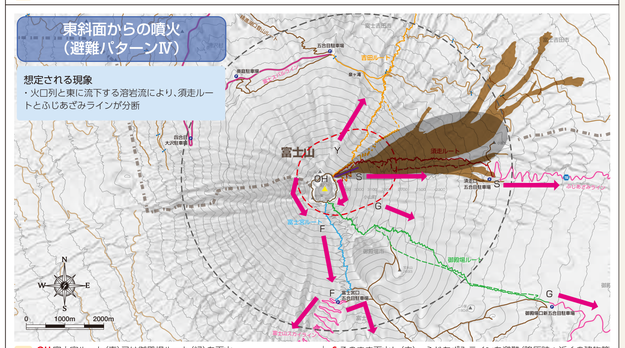
## 南西斜面からの噴火（避難パターンⅧ）




想定される現象
・南西に流下する溶岩流によって富士山スカイラインが分断

避難する方向
OH 須走ルート（赤）または吉田ルート（黄）を下山
F そのまま下山（青）
F-P 徒歩道を利用し御殿場ルート（緑）、または水ヶ塚駐車場（M）方向に避難（降灰時：近くの建物等にいったん避難）
G そのまま下山し（緑）、富士山スカイラインを御殿場方向に避難
S そのままを下山し（赤）、ふじあざみラインを須走方向に避難
M 富士山スカイライン（御殿場方向）または南富士エバーグリーンラインで避難

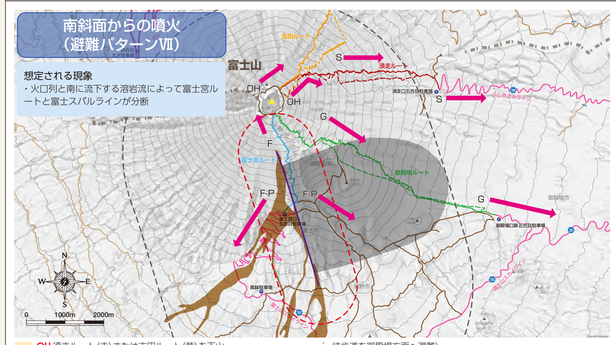
## 東斜面からの噴火（避難パターンⅣ）




想定される現象
・火口列と東に流下する溶岩流により、須走ルートとふじあざみラインが分断

避難する方向
OH 富士宮ルート（青）又は御殿場ルート（緑）を下山
F そのまま下山（青）
F-P 富士山スカイラインで富士宮方面へ避難（緊急時：徒歩道で水ヶ塚駐車場へ行き南富士エバーグリーンラインで避難）
G そのまま下山し（緑）、富士山スカイラインを御殿場方向に避難
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを避難（降灰時：近くの建物等にいったん避難）
Y そのまま下山（黄）

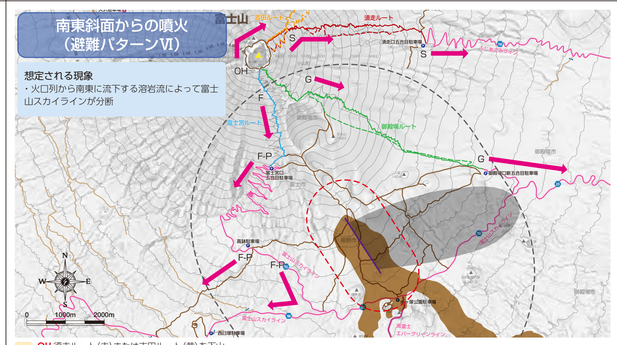
## 南斜面からの噴火（避難パターンⅦ）




想定される現象
・火口列と南に流下する溶岩流によって富士宮ルートと富士スバルラインが分断

避難する方向
OH 須走ルート（赤）または吉田ルート（黄）を下山
F 7合目以上の登山者は、山頂を経由し御殿場ルート（緑）へ避難、7合目以下の登山者は、徒歩道を経由し御殿場ルート（緑）方向へ避難（緊急時：近くの建物等にいったん避難）
F-P 富士山スカイラインを南方向に避難（緊急時：このルートを断念し、徒歩道を御殿場方面へ避難）
G そのまま下山し（緑）、富士山スカイラインを御殿場方向に避難
S そのままを下山し（赤）、ふじあざみラインを須走方向に避難

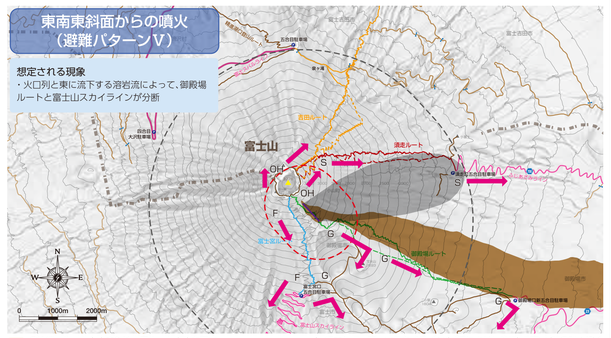
## 南東斜面からの噴火（避難パターンⅥ）




想定される現象
・火口列から南東に流下する溶岩流によって富士山スカイラインが分断

避難する方向
OH 須走ルート（赤）または吉田ルート（黄）を下山
F そのまま下山（青）
F-P 富士山スカイライン（緊急時：徒歩道）で南西方向へ避難
G そのまま下山し（緑）、富士山スカイラインを御殿場方向に避難
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを須走方向に避難

## 東南東斜面からの噴火（避難パターンⅤ）




想定される現象
・火口列と東に流下する溶岩流によって、御殿場ルートと富士山スカイラインが分断

避難する方向
OH 須走ルート（赤）または吉田ルート（黄）を下山
F そのまま下山（青）
F-P 富士山スカイラインで富士宮方面へ避難（緊急時：徒歩道で水ヶ塚駐車場へ行き南富士エバーグリーンラインで避難）
G 6合目以上の登山者は、富士宮ルート（青）へ避難、もしくは宝水火口を経由して、富士山スカイライン（状況により徒歩道）で下山（緊急時：近くの建物等にいったん避難）。6合目以下の登山者はそのまま御殿場ルートを下山（緑）し、富士山スカイラインを富士宮方面へ避難
S そのまま下山し（赤）、ふじあざみラインを須走方向に避難（降灰時：近くの建物等にいったん避難）